

2015年度の図書館展示とイベント

著者	鳥海 高広
雑誌名	ライブラリーレポート
号	3
ページ	59-73
発行年	2015
出版者	東京音楽大学附属図書館
ISSN	2188-4706
著者版フラグ	publisher
URL	http://id.nii.ac.jp/1300/00001082/

2015年度の図書館展示とイベント

株式会社日本データベース開発（図書館業務委託）

鳥海 高広

● はじめに

一昨年度から始まった図書館の展示やイベントは、今年度から「イベント検討グループ」を立ち上げ、稲葉事務長と様々な立場のスタッフ4人、計5人を中心に企画検討することになりました。展示に関する企画をするとともに、関連するイベントもこのグループ・ミーティングを中心に考えて作業していくことになりました。原則として月1回のペースで、定期的に会合を持つことで問題点や方向性を確認することにしました。

● 発表！図書館ナンバーワン・発見！あなたのオンリーワン

2015年1月19日（金）～ 2015年5月29日（金）

（ケース展示と貸出展示）

発表!
**図書館
ナンバーワン**
1
図書館資料の1番を大発表!
1番貸出が多い資料は? 1番大きい資料は?
その答えは図書館でチェックしてください。
2015年1月19日(月)スタート
東京音楽大学附属図書館1階ロビー

発見!
**あなたの
オンリーワン**
1
名曲・名作なのに…
残念ながら1度も貸出がない資料がまだまだあります。
そんな資料を図書館でチェックしてください。
2015年1月19日(月)スタート
東京音楽大学附属図書館1階ロビー

2015年度の展示の前に、前年度最後の展示について報告します。こちらは前年度に立案したもので、私を中心になって企画制作しました。

国際基督教大学の図書館が企画した「誰も借りてくれない本フェア」¹という企画を参考にし、当館でも今まで一度も貸りられていない資料を集めてみたらどうだろうか？ ということから、企画が始まりました。

また、同時に当館の資料中で一番のものは何かというものを集めて展示したらどうか？ ということも考えました。

この2つを合わせて、ケース展示では「図書館ナンバーワン」、貸出展示では「図書館オンリーワン」というタイトルをつけて展示しました。

ケース展示は、当館で「一番」なものを色々集めて展示しました。

例えば、当館の資料で一番大きい資料、一番小さい資料など見た目がナンバーワンな資料を展示したり、資料種別毎に貸出回数が一番多い資料などをリスト化して展示したりしました。

なるべく図書館に足を運んでもらおうということで、ナンバーワンとして挙げた資料はあえてポスターやサイトで知らせないようにしました。しかし、その効果があったかどうかはわかりませんでした。

貸出点数が多かったものは、雑誌でしたが、これは雑誌が1タイトルに1書誌が対応するため、全ての号が同じ書誌に対応するために多くなってしまったと考えられます。が、音楽系の雑誌ではなくて、週刊誌などの一般雑誌が上位に来ているのが意外でした。

貸出展示では、一度も貸出が無いという資料がかなりの点数存在しますが、2005年に現在の図書館システムが導入以後のデータしかなく、厳密な意味での貸出が全く無い資料とはいえません。

しかし、ジャンルや作曲家など、利用が少ない資料の傾向が少しわかったような気がしました。利用者のニーズに応えることと、利用は無くとも図書館として揃えておくべき資料とのギャップをどのように埋めるかというのも、今後の課題として浮かび上がってきたと思います。そのことを今後の貸出展示に活かせばいいと思っていますので、このような企画を定期的に行い、利用者へのアピールを続けることが大切だと思いました。

¹ <http://www.icu.ac.jp/news/20140618.html>



● コンクール～その扉を拓く鍵～

2015年6月8日(月)～2015年10月30日(金)

(ケース展示)

2015年は4年ごとに開催されるショパンコンクールと5年ごとに開催されるチャイコフスキーコンクールが同時に開催されました。

これを記念して、図書館でコンクールに関する展示を行うことにしました。コンクールに入賞・入選することは、その後の音楽家の活動に多大な影響をもたらすと思います。もちろん、演奏家・作曲家・研究者としての活動がストレートに評価される部分もありますが、受験と同じくコンクール毎にその傾向と対策といったものが存在します。そういうものに特化した書籍がいくつか刊行されていますので、そういった書籍をはじめ、コンクール入賞者が演奏したCDやDVDを展示しました。今回の展示はとくに学生からの反応が良く、熱心に見入っている利用者の姿が見受けられました。

また、ショパンコンクールやチャイコフスキーコンクールに関する雑誌記事の一覧を掲示し、サイトからも見られるようにしました。このリストは、次回それぞれのコンクールが開催されるときにも役立つ資料になったと思います。

展示を通じて、特定の分野の資料をリスト化し、蓄積していくことは利用者へのアピールツールとして大切なことだと思いました。今後も同様なリスト化は続けていけたらと思います。

今回展示の新たな試みとして、YouTubeで公開されているチャイコフスキーの肉声へのリンクアドレスとリンクQRコードを展示しました²。サイトにもリンクを載せました。本来なら、こういったインターネット上にある情報へ直にアクセスできるような端末が図書館にあるといいのですが、まだその環境が整っていません。後述する展示でもインターネット上に素晴らしい情報がある場合、どのように知らせるのが得策なのかが今後の課題になりました。



² <https://www.youtube.com/watch?v=7DEEdFLjUiw>

第17回フレデリック・ショパン国際ピアノコンクール
第15回チャイコフスキー国際コンクール
開催記念

コンクール

その扉を開く鍵

★実力が無ければ開かない扉を少しだけサポートする鍵を展示します



2015年6月8日(月) スタート
東京音楽大学付属図書館 1階ロビー

● 戦後 70 年 —平和を祈る—

2015 年 6 月 22 日 (月) ～ 2015 年 9 月 30 日 (水)

(貸出展示)

2015 年は、第 2 次世界大戦終結 70 年という節目の年でした。そこで、図書館所蔵資料の中から戦争に関する資料を貸出展示することになりました。中心となるものは第 2 次世界大戦に関連したものでしたが、そこだけにこだわらず普段なかなか手に取ることが少ない資料を貸出展示することになりました。

書籍は「一般書から」「収容所での音楽活動」「戦時下の音楽・芸術・文化」「戦争と音楽」「音楽家の戦時体験」「反戦の音楽作品と活動」というテーマ毎に分類し、展示しました。楽譜と CD は日本人作曲家が戦争をテーマに創作した作品を中心に展示しました。いずれもリストをサイトで公開しました。

展示は、政治的な意味やメッセージ性を極力排すること、思想的な偏りが無いようにすることなどに気をつけました。

世間的にも、戦後 70 年ということでテレビや雑誌などでも特集を組まれることが多かったのですが、学生の反応があまりなかったことが残念でした。しかし、一部の教員の方には好評をいただき、また東京音楽大学とは関係の無い一般の方からの問合せもありました。当館は一部の例外を除き一般公開はしていないことを説明しました。

テーマの選択によっては、図書館の利用者に限らず様々な反響があることを知りました。今後に活かしていけたらと思います。

2015年 夏

戦 後

東京音楽大学附属図書館
貸出展示企画

70年

平和を祈る

展示場所：図書館1階ロビー

展示期間：2015年6月22日(月)～9月30日(水)

—— 図書館所蔵資料を通して

戦争と平和を考える ——

● 150 年目の S と N ～シベリウスとニールセン～

2015 年 10 月 8 日 (木) ～ 2015 年 12 月 18 日 (金)

(貸出展示)

2015 年はフィンランドの作曲家ジャン・シベリウス (Jean Sibelius, 1865-1957) とデンマークの作曲家カール・ニールセン (Carl August Nielsen, 1865-1931) の生誕 150 年でした。そこで、二人の作曲家の作品を貸出展示することになりました。

シベリウスは日本でも頻繁に演奏される大作曲家ですが、コンサートなどで取り上げられる作品は限られていて、合唱曲やピアノ曲を聴く機会が少ないように見受けられます。また、ニールセンはデンマークを代表する作曲家にも関わらず、シベリウスに比べて日本では一般的に知られてはいない感じがします。そこで、シベリウスの有名な曲に限らず、様々なジャンルの楽譜を、ニールセンは代表的な作品を貸出展示することになりました。

どちらの作曲家も生誕 150 年を祝して、それぞれの作曲家の国で記念コンサートや行事が開かれているとのことで、そういった情報へのリンクをサイトで広報しました。特にニールセンは、デンマーク王立図書館内にあるニールセン・エディションのサイトで全集の楽譜を公開すると同時に、主要な作品の音源もネットで配信していました³。こちらへのリンクをサイトで公開しました。

コンクールの展示でもふれましたが、図書館には展示用のコンピューターやタブレット端末がありませんので、どうしてもインターネットの情報を巻き込んだ企画が限られてしまいます。今後は、学生にも普及しているスマートフォンとの連携などを考えるなど、展示に工夫をしなければと考えています。



³ <http://www.kb.dk/en/nb/dcm/cnu/>

150年目の SとN

シベリウスとニールセン
J. Sibelius and C. Nielsen

ふたり揃って
生誕150年記念

東京音楽大学附属図書館 貸出展示
1階ロビー 2015年10月8日(木)スタート

● バッハの神学文庫

2015年11月5日(木)～2016年5月上旬予定

(ケース展示 一部貸出展示)

本学元講師で音楽評論家の丸山桂介先生が長年にわたって収集されたバッハやバッハと同時代の神学に関する資料が当館に寄贈されました⁴。主にバッハとキリスト教神学との関わりを中心とした資料であり、バッハと同時代に刊行された聖書をはじめ、当時の百科事典のマイクロフィッシュ、バッハの書き込みがある聖書のマイクロフィルムなど、多様な資料があります。

それを記念して、寄贈資料の中からバッハと同時代に刊行された聖書とコンコルダンスを展示し、関連する書籍を貸出展示することになりました。

また、丸山先生が春秋社発行の広報誌『春秋』に連載された原稿が読めるように展示しました。

今後も当館所蔵のコレクション資料の展示は継続的に行いたいと思います。



⁴ バッハの神学文庫はコレクションサイトに詳細があります。

<http://tokyo-ondai-lib.jp/collection/bacharchive/>

バッハの神学文庫



Biblia : das ist, die gantze Heilige Schrift, Altes und Neues Testaments / verteutschet durch D. Mart. Luther ; mit dem Anhang deß dritten und vierten Buchs Esra, wie auch D. Jacobi Welleri vorrede und Der Augusburgischen Confession ... [et al.] Lüneburg : Stern , 1750
(1750年に出版された聖書)



Biblische real und verbal Hand-Concordanz oder exegetisch-homiletisches Lexicon : darinne die verschiedene Bedeutungen derer Wörter und Redensarten angezeiget, die Sprüche der ganzen heiligen Schrift ... / herausgegeben von M. Gottfried Büchnern
Jena : Gedruckt und verlegt bey Peter Fickelscherm , 1756
(1756年に出版された聖書のコンコルダンス)

東京音楽大学元講師である丸山桂介先生の研究室にあったバッハに関する資料をはじめ、バッハを取り巻く思想・神学的背景をひもとく資料や、先生ご自身がヨーロッパやアメリカで集められた貴重な原典資料のマイクロフィルム、18世紀の古い聖書などが東京音楽大学付属図書館に寄贈されることになりました。これらの資料は、今後のバッハ研究に大変役立つものと考えられます。

今回その資料の一部を、図書館で展示します。

2015年11月5日(木)スタート
東京音楽大学付属図書館 1階ロビー

● 生誕 150 年 エリック・サティ 甘美か退廃か革新か異端か

2016 年 1 月 14 日 (木) ～ 2016 年 3 月末予定

(貸出展示)

2016 年はフランスの作曲家エリック・サティ (Erik Alfred Leslie Satie, 1866-1925) の生誕 150 年です。伝統的な音楽語法とは少し距離を持つサティの魅力を感じてもらおうと、楽譜や書籍を中心に展示しています。

書籍は、展覧会のプログラムも何点か貸出展示しています。音楽家をテーマに展覧会が開かれることはそれほど多くはありませんが、サティは日本でも何度か開催されています。また、普段は閉架書庫に置かれている洋書もビジュアル的なものを中心に貸出展示しています。

こういった作曲家の記念イヤーの展示は、今後も継続して行いたいと考えています。



東京音楽大学付属図書館貸出展示

生誕 150 周年

エリック・サティ

甘美か退廃か革新か異端か

Érik Satie

2016年は作曲家エリック・サティ（Éric Satie）の生誕 150周年にあたり
ます。

『ジムノペディ』や『ジュ・トゥ・ヴュー』といった有名曲の楽譜はもちろん、
展覧会のカタログや普段あまり目にする機会が少ない洋書まで、サティの様々
な資料を貸出展示します。

この機会に、多彩なサティの魅力を是非手に取ってください。

2016年1月14日（木）スタート
東京音楽大学付属図書館 1階ロビー

● イベント

イベント検討グループでは展示の話し合いと同時にイベントの話し合いも行っています。今年度図書館が主催したイベントは2015年11月1日(日)に開催したライブラリー・セミナー『バッハの神学文庫 —J.S. バッハ その響きの`謎、を探る—』と、2015年12月14日(月)に開催したレクチャーコンサート『リュートと歌で巡る優美なヨーロッパ300年の旅〜ルネサンスからバロック時代へ〜』。11月に開催したイベントの続編で2016年2月27日(土)に開催したライブラリー・セミナー『バッハの神学文庫 —J.S. バッハ その響きの`謎、を探る—2』の3つでした。

● ライブラリー・セミナー

ライブラリー・セミナーは本学元講師で音楽評論家でもある丸山桂介先生から当館に寄贈された「バッハの神学文庫」の資料を元に、丸山先生にバッハの作品に当時の神学がどのように影響しているかを講義していただきました。一般の方の参加も募り多くの方が参加されました。時間の都合で、説明が途中で終わってしまったこともあり、先生に相談したところ続編を年度内に開催することになり、2016年2月に急遽開催されました。1回目の講義に参加された方々からは、多数の方がリピートして参加されました。そのことから、講義の内容が充実していたこと、また、バッハ作品への関心が高いことを知ることが出来ました。

このことを踏まえて、来年度、丸山先生にバッハの『マタイ受難曲』を取り上げた連続講座をお願いすることになりました。

● レクチャーコンサート

レクチャーコンサートは、当館館長でもある坂崎則子教授が豊島区民向けの「としまコミュニティ大学」で講義された内容をさらに充実させた形で行われました。

本学講師の服部洋一先生の歌と、本学講師の水戸茂雄先生のリュートをはじめ、普段あまり直に聴くことが少ないビウエラやキタローネの演奏がありました。

当日は当館所蔵のリュート・タブラチュアなど貴重なファクシミリ版の楽譜の展示もあり、参加者が興味深そうに見入っていました。

これからも図書館では所蔵資料を活かし、広く一般の方が参加できるようなレクチャーコンサートやライブラリー・セミナーを開催していこうと考えております。そのためにイベント専用のサイトを立ち上げました。今後はこちらのサイトを中心に広報していこうと考えています。

● 終わりに

2019年に予定されている新しい校舎への移転を控え、図書館の展示とイベントは今後ますます重要性を増していくと思われます。そのような状況で今年度から検討グループを立ち上げ、新たな体制で臨むことになりました。

今後は図書館単独ではなく、他部署・他機関との連携をはかりながら、よりいっそう利用者へ向けた活動を拡げると共に、地域住民や卒業生といった普段図書館を利用しない人々へ向けた情報発信を高めていかなければと思っています。そのためにも、原則として一般公開されていない大学図書館であるという立場をどう解決していくのかは、今後も引き続き考えていかななくてはならないと思います。

これからも、限られた予算と時間の中で最大限効率的に動けるように努力していきたいと考えています。

図書館の展示サイト

<http://tokyo-ondai-lib.jp/exhibition/>

図書館のイベントサイト

<http://tokyo-ondai-lib.jp/event/>